

先見経済 SENKEN KEIZAI

Since 1938

Dec.2010

12 15

12月15日号

特集

組織を活性化するライオンランド式研修

リサーチ

好評連載
井熊均
井徳正吾
今井激
鎌田慧
小松義夫
境野勝悟
高橋陽子
沼崎益夫
松野豊
横田尚哉
和田努

Relearning

先見TOP interview

見えない価値を大切に する企業文化を

多摩大学大学院 教授

田坂広志

聞き手・山口哲史

清話会セミナー講演録

マルカス

インドと手を結べばアジアはさらに繁栄する

中川清徳

第二次官政権下で中小企業が生き残るには

一坂太郎

つくられたヒーロー一坂本龍馬の実像とは

見ええない価値を大切にすゝる企業文化を

日本企業の現場に求められる「言霊」とは

聞き手▼山口哲史 株式会社フロ・アクティブ代表

全国から2600名のメンバーが集まる「社会起業家フォーラム」を主宰する田坂広志氏は、「見ええない価値を大切にすゝる企業文化が求められている」と話す。日本企業が進むべき道とは何かを伺った。

**目に見えない価値を
見つめる叡智**

山口 田坂さんは2009年に『目に見えない資本主義』（東洋経済新報社）を、今年になって『忘れられた叡智』（PHP研究所）という本を出されています。まずはこれらの本を執筆された意図を教えてください。

田坂 『目に見えない資本主義』は、私がダボス会議に出席して感じた疑問、「これから資本主義はどこに向かうのか」をテーマに書いたものです。ただ、これは主に経営者や政府関係者、エコノミストの方々に向けて書いた本ですが、『忘れられた叡智』は、もっと幅広い読者に向けて、『目に見えない資本主義』のエッセンスを詩的寓話として語ったものです。これから時代

がどこに向かうのか。これから何が大切になっていくのかを、多くの人々に伝えたいと思ったのです。

山口 どちらも「目に見えない価値」がテーマになっていて興味深く拝読しました。これは日本人が古くから大事にしてきた価値観の一つですが、今は目に見えないもののしか評価の対象になりません。現代の病ですね。

田坂 日本には、昔から「目に見えない価値」を大切にすると叡智があるのですね。『忘れられた叡智』は、経済危機に陥ったグローバル化の片隅にあるジャポニア村で起こった物語。この村に住む智恵子と賢治が、「資本主義はどこに向かうのか」という問いを抱き、村長やエコノミストのところに行く。しかし、





先見TOP interview
with 多摩大学大学院教授

田坂広志

ホスト

山口哲史 (やまぐちてつし)

1961年兵庫県生まれ、関西学院大学商学部卒業後、リクルートなどを経て90年、現(株)プロ・アクティブの前身のファイド・アクティブを設立。竹100%でできた繊維など自然でピュアなエネルギーを活用した「人を自然に輝かせる(ラディアンス)力」のある健康、美容商品の企画・販売を手掛ける。社内外ともに「ガッツさん」の愛称で親しまれている。

<http://www.pro-active.co.jp>

この状況を突き抜けていくための方策はありますか。
田坂 まず、経営者は、欧米の経営に目を奪われず、足元を見つめるべきでしょう。森の聖人は、「村に戻ったならば、まず最初に、自分達の立っている大地を見つめなさい」と言います。そして、目に見えない価値を大切にす文化と叡智は、すでにジャポニア村にあることを教えます。これは企業も同じ。日本の企業には、目に見えない価値を大切にす文化も叡智も、すでにあるのですね。

「言葉」が
企業文化を変えていく
山口 では、企業の現場に眠る、目に見えない価値を復活させるために、経営者は何をすればいいのでしょうか。
田坂 「言葉」を語ることです。日本にある「目に見えない価値」を語る言葉を、魂を込めて語ることです。例えば、お客様に対して「今日は有り難いご縁を頂きました」というとき、「縁」という言葉に心を一致させて語る。それだけで、何かが変わり始めます。また、この「有り難い」

も素晴らしい言葉。英語の「Thank you は、「あなたに感謝する」という意味ですが、「有り難い」は、英語で言えば、It's a miracle. 「これは奇跡の出会い」という意味です。
山口 「言葉」とは、それを発するだけで現実を大きく変える力を持った言葉ですね。それを信じて使うことが、見えない価値を復活させるのですね。
田坂 そして「言葉」は「行(な)す」こととさらに力を発揮します。毎週朝礼で社長が訓辞を垂れるよりも、毎朝、心を込め、思いを込めて、社員に「苦勞さま」と語りかける。それだけで企業文化は変わり始めます。
山口 私たちはそれを幼い頃から学んできたはずなのに、体感的に育つてこなかった。だからこそ今、企業の現場で経験しなければならぬ。
田坂 あと20年経ったら戦争体験者がいなくなるのと同様、古き良き日本型経営を知る人たちがいなくなる。だからこそ、い

ま、こうしたことを現場で実践し、次世代に引き継いでいかなければならないのですね。
山口 話は変わりますが、田坂さんはもともと民間企業への就職を希望されていたのですか。
田坂 いえ、私は大学院で博士号を得たので、本当は、研究者になりたかったのです。しかし、ポストがなかった。そこで、せめて民間企業の中央研究所で働ければと考えて就職したら、配属されたのは営業の仕事でした。しかしそれは、いま振り返ると、有り難い天の配剤だったのですね。お陰で、自分の中の

可能性を咲かせて頂いた。だから、私は、もし人生をやり直せるとしても、もう一度同じ人生を歩みたいと思っています。
山口 天の声を受け、人生をまっとうしているから、悔いはないというわけですね。
田坂 若い頃に立てた計画通りに人生が歩めるわけではない。しかし、希望と違った道が与えられたとき、その天の声をどう

成熟した心には
見えない価値が見える